

日本記者クラブ会報

第399号
2003年
(平成15年)
5月10日発行

〒100-0001
東京都千代田区内幸町二ノ二ノ一
日本プレスセンタービル
◎社団法人 日本記者クラブ

田城明氏(中国新聞)にクラブ賞 総会記念講演は山内東大教授

今年度の日本記者クラブ賞は、中国新聞社特別編集委員の田城明さんⅡ写真Ⅱに決まりました。

田城さんは、兵庫出身の五十五歳。同県立洲本実業高校電気科を卒業後、一九七二年に中国新聞社販売局発送部員として入社。旺盛な勉強意欲が認められて、一年に三十三歳で編集局報道部に配



属されると、八七年には米国タフツ大フレッチャー法律・外交スクール大学院修士課程修了、という経歴の持ち主です。一貫して「核」

をテーマに国際的な視野で取材活動を展開。被爆体験の風化が懸念されるなか、核超大国・米国など各国関係者への真しで丹念な取材を通し、人類史の問題としてとらえた最近の企画・連載「知られざるヒバクシャ 劣化ウラン弾の実態」「二十一世紀 核時代 負の遺産」などが評価されました。

これまで九五年のポーン・上田記念国際記者賞、二〇〇〇年度日本ジャーナリスト会議大賞、〇二年度石橋湛山記念早稲田ジャー

ナリズム大賞を受賞したほか、中国新聞社が受賞した八五、九〇、九五年の日本新聞協会賞にもチームとして参加しています。

贈賞式は今月二十三日に開く総会の席上で行います。田城さんは、七四年度に長崎新聞社の松浦直治さんが受賞して以来三十六人目、地方紙では三人目となります。

なお、総会の後、午後四時半から十階ホールでイスラムの専門家、東大大学院教授の山内昌之さんを迎え、「イラク戦争と国際社会―日本の選択」と題して記念講演、続いて同五時半から会員懇親会を開きます。ご予約ください。

四月の行事は、カイ・ベトナム首相とミシユラ・インド首相首席補佐官の記者会見、矢嶋英敏島津製作所社長と潮谷義子熊本県知事の昼食会、大野元裕中東調査会客員研究員の「イラク問題」とリュック・モンタニエ博士の「HIV

／エイズ」の研究会など六件。

田中耕一さんのノーベル化学賞受賞で一躍有名になった矢嶋社長は「計画は五% 実行が九五%」と、揮ごう。中期計画を七、八回

出したが、一回も達成していないそう。「五%の計画を、実行・達成することが大切。経営者は実行してこそ一人前」と、きっぱり。

ノーベル化学賞を生んだ社風を持つ企業経営者の言葉は違っています。他に試写会「スパイ・ゾルゲ」を二十八日に昼と夕の二回上映し、いずれも満席、大好評でした。

GMジャパン(法賛)が新入会

法人賛助会員にゼネラルモーターズ・アジア・パシフィック・ジャパンが入会しました。三月に行った米ゼネラル・モーターズのジョン・スミス会長の記者会見がきっかけで、決まったものです。

今年に入ってから法人賛助会員の入会は、電力中央研究所、キヤノン、アットネットホームに続いて四社目。順調です。これで法賛会員は八十一社となりました。

(専務理事 那部吉正)

ファン・バン・カイ ベトナム首相



クラブでは二度目の会見

る協定合意を実現した安ど感もに
じみ出ていた。

▼一党体制は今後も継続
「満開の桜は、いまのベトナム
と日本の（良好な）関係を象徴し
ている」。カイ首相は、日本の経
済協力に対して、このような表現
で感謝の意を示した。四月七日に
小泉首相と会談し、投資自由化を
定めた日越投資協定に合意。これ
により、ベトナム進出の日本企業
が内国民待遇と最恵国待遇を保証
されることになった。カイ首相の
冒頭の言葉には、日本からの安定
的な企業進出、投資に道筋をつけ

ベトナムは、一九八六年、市場
経済化を目指す「ドイモイ（刷新）」
政策を実施したが、カイ首相は、
この時期にドイモイ推進の舞台と
なったホーチミン市の市長を務め
た。「経済の大切さ」を骨身で知
った指導者だ。時節柄、イラク戦
争や北朝鮮の核問題に関する質問
も出たが、答弁の多くは、やはり
経済問題に費やされた。ドイモイ
政策の成功を指摘しながら「ベト
ナムは、七%の経済成長を維持し
ている。政治、経済が安定し、勤
勉な、豊かな労働力があり、人件
費が安い」と発言、「投資に有利
なベトナム」を強調した。
しかし、経済が発展すればする
ほど、国民の要求はそれにとどま
らず、社会的、政治的分野に広が
っていくものだ。ベトナムも同じ
だろう。
「次のステップは、共産党一党
体制から複数政党制に変えるなど
の政治改革ではないか」との質問

に対し、カイ首相は「指導部の責
任は、国民に豊かな生活を保障す
ること。行政改革を進めながら、
それを追求していく。複数政党制
について国民が希望していること
はない」と答え、一党体制の継続
を通してさらなる「豊かさ」を実

現する、との意向をはっきり示し
たのが注目された。
毎日新聞編集委員
薄木 秀夫

4・9（水）記者会見 司会 北
村正任理事長 通訳 グエン・カ
ン・ルオン・ベトナム外務省日本
課長 出席85人

大野 元裕 中東調査会客員研究員

▼米国が犯した三つの無理

他国の追従を許さない圧倒的軍
事力を背景に、冷戦終結後は唯一
の超大国として君臨する米国。そ
の米国がイラク戦争を始めたこと
について、ドイツのノーベル賞
作家ギンター・グラス氏は「わ
れわれの知っているあのアメリカ
は、一体どこに行ったのか？」と
嘆いた。

義を定着させた米国。理想に燃え
た、尊敬に値するかつての米国が
やることは思えないと、グラス
氏は言いたかったに違いない。
大野氏もまた、米国は戦争の人
り口で「三つの無理を犯した」と
指摘した。「そもそも武力を行使
する必要性があったのか、説得力
ある説明がない。イラクが大量破
壊兵器を隠匿していると主張する
が、確たる証拠を示せなかった」

第二次大戦を連合国側の勝利に
導き、マーシャルプランで欧州を
復興させる一方で、日本に民主主



4.11（金）研究会
「イラク問題」③
司会 矢島誠司 委員
出席 126人

「国連安保理の承認がないまま、
攻撃に踏み切った」「フセイン政
権打倒といいつながら、ポスト・フ
セインの受け皿を用意できなかった」
の三つである。そうした無理
を重ねた上での戦争は「大義がな
い」ものに映る。フランスやドイ
ツ、ロシアなどを筆頭に、国際的

反戦機運が盛り上がった最大の理由はまさにそこにあるだろう。

大野氏は、わが国も今回は難しい立場に置かれたと語り、日本の取りうる選択肢として①力の強いものが支配する弱肉強食の世界に日本も同調し、参戦する②対米追隨していく③米国を国連の枠組みに連れ戻すの三点を提示。この中で最良は三番目であるとし、米国に対し「国連は重要である」と説得するためにも、日本は米国に對するレバレッジを確保しておく

矢嶋 英敏 島津製作所社長



4.18 (金) 昼食会
司会 宇治敏彦 理事
羽生健二 委員
出席 65人

▼ノーベル賞を生んだ社風

田中耕一氏のノーベル化学賞受賞で、日本で最も有名な社長の一人となった。防衛庁勤務を経て、日本航空機製造で国産旅客機「YS-11」の海外販売を担当。四十

必要があると強調した。

イラク戦争は「フセイン政権はなぜ、インフラ破壊に出なかったか」「化学・生物兵器を持つていたのか。持っていたら、なぜ使わなかったのか」など多くの疑問を残したまま、焦点は戦後復興に移りつつあるが、戦争を通じ説得力ある分析をばされた大野氏に、これらの疑問点についてうかがう機会があればと思った。

共同通信編集委員 小笠原 昂

二歳で島津に中途入社した異色の経歴を持つ。

その経歴や創業百二十八年となる島津の歴史に触れつつ、「無」から「有」をつくった田中氏への評価や人材育成など経営哲学を中心に話は進んだ。「根っからの営業マンで、講演はあまり……」と切り出したが、ユーモアも織り交ぜた話は具体的に説得力があった。

田中氏を生んだ社風については「若いうちから重い課題を与えている。結果は早急に求めず、最低

五年は任せる。待った方が結果が出る」という。その上で「技術は必ず汗を流して自分たちで開発しろ」と言い続けている」とも。

また「技術者は管理されることを嫌うが、野放しではなく、研究の進行状況などのチェックも重要だ」と強調。同時に、チームワークや人との運命的な出会いの大切さも説いた。

海外市場開拓の経験から「世界で戦える技術がないと、自然淘汰される。研究開発は日本企業の生命線」とし、優秀な人材育成が今

ブラジージェーシュー・ミシユラ

▼古武士と哲学者の風格

かねて抱いている印象だが、インドの要人には、哲学者か古武士のような風格を漂わせている人が少なくない。



4.18 (金) 記者会見
司会 矢嶋誠司 委員
通訳 澄田美都子
出席 46人

後の日本を左右すると指摘した。

恒例の揮ごうは「計画は五%実行が九五%」。「これからの経営者に求められるのは実行だ」ときっぱり。「命がけてやらなければ事業は成功しない」とともに、計画作りに精力の大半を費やす役所の人にも聞かせたい言葉だ。

淡々とした口調ながら、田中氏のノーベル賞で内外から注目されている企業のトップらしく、誇りと自負が感じられた。

京都新聞東京支社次長兼編集部 長 永島 宣彦

インド首相首席補佐官

今回のゲスト、ミシユラ氏もまさにそうした人だった。

バジパイ首相の首席補佐官（閣僚）という要職と、外交官として長年、数々の修羅場をくぐってきた経歴が、そのような風格を作り上げたのだろうか。

戦後日本人の多くが失ってしまった武士と哲学者の気骨と気迫を感じさせる人ではあった。

今回、外務省の招待で来日したミシユラ氏は、川口順子外相、福

田康夫官房長官、石破茂防衛庁長官、石原慎太郎東京都知事、関係の国会議員らとの相次ぐ会談をこなし、当クラブでの記者会見に臨んだ。

森喜朗・前首相のときに調印された日印間の「グローバル・パートナーシップ」協定にもとづき、両国間の経済、文化、安全保障など幅広い協力関係を深め、とりわけ日印間の「戦略的な諸問題に関する対話」を進めるのが来日の目的だったという。

戦略的諸問題の中には、ITに関する技術や労働者の交流、アジア

リユック・モンタニエ 世界エイズ研究予防財団理事長

▼SARSとの重感染を懸念

博士は何度も来日している。筆者自身、会見やインタビュー、講演で話を聴くのは五度目である。十数年前、エイズワクチン開発の見通しについて尋ねたところ、楽観的とまではいかないが、かなり期待が持てる発言があったことを覚えている。今回、同じ質問をしたところ「いざれ開発されると信じている」と、以前より慎重な

アの安全保障問題、対テロ対策なども含まれていたもようだ。

出席者数は多くはなかったが、それだけ専門的知識や関心の深い人たちがかりとなり、質疑はイラク戦争、米英との関係改善、先制攻撃論争、カシミール問題、スリランカ和平、ASEANとの関係、北朝鮮のパキスタンへのミサイル輸出問題などと多岐にわたり、熱を帯びたものとなった。会見場には、日本通で知られるセツト駐日大使の姿もあった。産経新聞論説委員

矢島 誠司

言い方にとどまった。予想以上に難しいということなのだろう。

「従来のワクチン開発では、エイズウイルス(HIV)の表面抗原のタンパクをそのまま使ったので変異株に対応できなかった。どの変異株にも効くように、表面抗原を改変し共通領域を増やす必要があるのではないか」という。その場合、予防用よりも、臨床試験で効果が判定しやすい治療用



4.21(月)研究会
「HIV/エイズ」
司会 宮田一雄 委員
通訳 大野理恵
出席 48人

ワクチンの開発から取り組むべきことを強調した。

日本の現状について「先進国の中で唯一、新規の感染者、患者がともに増え続けている。治療可能になったと勘違いし、予防教育がおろそかになっているのではないかと指摘。「性的接触など感染

潮谷 義子 熊本県知事

▼女性知事四人でスクラムを

「記者会見が一番苦手なんです」と、潮谷知事は冒頭に、はにかむような笑みを浮かべ、そう述べた。全国では二番目、民間からは初めての女性知事の誕生に、県民の県政に寄せる期待も大きかった。そして今年には就任四年目。潮谷知事はこれまでを「課題が次々とわき出てくるようだった」と振り返った。確かに水俣病関西訴訟判決、ハンセン病訴訟の和解など、全国

経路が限られているので予防は難しくないとし、若い世代への啓発活動を強めるよう求めた。

アジアを中心にまん延している新型肺炎(SARS)とHIVの関係にも言及。「HIV感染で免疫力が低下している中でSARSに感染すると、HIVと結核菌の重感染と同様に、死亡率が上がり深刻な事態を招くだろう。特にHIVがまん延している中国南部が心配だ」と警告した。

東京新聞・中日新聞論説委員

日比野守男

でも大々的に取り上げられるような問題が次々と起き、その度に県のスタンスが問われた。

特に、川辺川ダム問題については、就任時から、県政の重要課題と位置付けている。昨年、県営の荒瀬ダムについて、全国で初めて「完全撤去」という大胆な決断をした。今回の昼食会でも、もちろんダムに関する質問が相次ぐことが予想された。しかし、先手を打ったのは知事だった。知事は



4.22 (火) 昼食会
川戸恵子委員長
菅沼堅吾委員
出席 65人

取用委員会の採決を見守りたいという、これまでの慎重姿勢を崩さなかった。

四年目の今年は、新しく誕生したばかりの北海道知事ともあわせ、女性知事四人でスクラムを組みたいと、意欲を燃やす。川辺川

ジャクソン元NRC委員長

シャーリー・アン・ジャクソン博士・米国原子力規制委員会(NRC)元委員長が六月末に来日し、日本記者クラブで、「米国における原子力発電のリバイバル」の題目で会見する予定だ。

ジャクソン博士はクリントン政権下の一九九五年にNRC委員長に就任、原発の運転管理を大改革、リスク情報に基づく新しい規制を導入し、低迷していた原子力発電

ダム問題も大詰めを迎えるほか、財政の健全化など重要課題を抱える。今年こそが正念場だ。話の途中、時折みせる知事の表情が、記者にはどこか懐かしかった。知事就任前の副知事時代に見た顔だった。ダム問題の追及をかわし、「パトナーシップ」と何度も繰り返す知事を見てみると、「いつまでも庶民派の知事であってほしい」と、強く思った。

テレビ熊本報道制作部

庄野 愛子

を再生させた。この結果、原子力発電は稼働率が向上して米国で最も安い発電方式となり、ブッシュ政権が今後のエネルギー環境政策の中で原子力を重視する基礎を築いた。この新規制は日本でも採用することを検討中で、ジャクソン博士の体験談は参考になる。同博士はMITで博士号を取得した初のアフリカ系アメリカ人女性として高名。理論物理学者。現在は米国レンセラー工科大学学長。

企画委員

中村 政雄

三月に日銀副総裁を退任した藤原作弥さん(クラブ功労会員)を囲む会が宴会場で開かれた(4・22)。ごく内輪にというご本人の希望で、当初は出身社の先輩、同僚でということのようだったが、早耳の他社の



時事の写真部が希望者に藤原さんとのスナップのサービス

藤原作弥さんを囲む会

仲間たちも駆けつけた▼時事の榊原社長が「本当にご苦勞さまでした」とあいさつした後は、クラブの会員が次々マイクの前へ。五十畑さん(元産経)、鈴木さん(元日経)、国政さん(元読売)。みんな「また、一

緒に日銀批判をやるうよ」と、お帰りなさいの弁▼司会者の進行の妙もあって、記者仲間ならではの屈託ない温かさにあふれた会場にいて、五年前のことを思い出した。松本楼での副総裁就任のお祝いの会で、毎日の斎藤社長は次のように言った。「日銀はいま有徳の人を必要としている。だから藤原さんを送り出すのです」と。

アジア経済五・三%成長 アジア開銀は10階ホールでの会見で、この地の地域経済見通しを修正発表した(4・28)。地域全体(日本などを除く)のGDP成長率は五・三%で、前年の五・七を下回る。が、SARSの影響は正確に読み込めないものの、アジア太平洋地域は世界経済の中で唯一の「明るい地

域」であり続けると。東アジアでは中国が七・三%で昨年の八・〇を下回る。輸出のかけりと失業増がマイナス要因。韓国も昨年の六・三から四・〇%へ。東南アジアではベトナムが堅調で昨年の六・四から六・九%へ。南アジアではインドが元気で昨年の四・四から六・〇%への見通し。

金大中拉致事件

身元保証人は外相？



青木 徹郎

首脳が引き受けていたことになる。

この「事実？」が表に出れば、金大中事件の真相解明はもとより、日韓関係そのものにも、重大な影響を及ぼすものと思っ

た。そのため、自分なりに判断して、この「事実？」を報道するのを断念した。心のうち

に秘め、ほとぼりがさめたら関係者に確認することにした。

事件前の韓国の政治情勢はどうだったろう。六一年五月将校を率いてクーデターに成功した朴正熙は、六二年三月に大統領権限代行になり、六三年十月の選挙で、尹潽善候補を小差で破り、第五代大統領になっていった。長期化する軍事政権に対する反政府・民主化運動が、国民の間で高まっていた。

こうした中で、七一年に大統領選挙が行われ、朴大統領と、野党「新民党」のスポークスマンとし

て金泳三らと共に活躍していた金大中の二人が争った。選挙の結果は、六三四万票対五四〇万票と約九〇数万票の差で、現職の朴大統領が勝利をおさめた。しかし、金大中候補の大統領選の善戦は、反政府・民主化運動を勢いづかせた。

その直後、金大中が交通事故で重傷を負う事故が起こった。朴大統領の強力な政敵となった金大中を抹殺するため、KCIA（韓国中央情報部）が企てたという「陰謀説」もあった。金大中は、このケガの後遺症の治療や海外の同胞たちの支援を受けるため、たびたび米国や日本を訪れ、反政府・民主化運動を続けていた。

九〇万という票差に危機感をつのらせた朴政権は、政敵・金大中の反政府運動を抑圧するため、彼の海外滞在中の七二年十月に「非常戒厳令」を発令した。このため金大中は、国外へ亡命したも同然となり、とても韓国に戻れる状況ではなくなった。

この翌年、金大中事件が起こっ

北朝鮮による日本人拉致事件が新聞・テレビで大きなニュースとなったが、拉致事件といえは、いまから三十年前、韓国の公安当局が、当時、韓国の反政府・民主化運動のリーダー格だった金大中前大統領を日本国内から連れ去った事件と、この事件に関連して、記事には書けなかった一つの「事実？」を思い起こした。

金大中事件は、韓国の公権力により、国家の主権が侵害されるといふ、日本にとって極めて重大で深刻な問題であった。しかし、日本の捜査当局が、拉致事件に在日韓国大使館の一等書記官が関与し

ていたことを突き止めたが、日韓両国政府は、事件発生から三カ月後、日韓首脳会談によって、事件の真相解明を棚上げにして政治決着を図った。

当時のことなので、いつごろのことか、記憶はさだかではないが、この事件に関連して「重大な事実？」を知った。

日本滞在中の金大中の身元保証人に、当時の大平外相がなっていたという話を、懇意にしていた警察庁幹部から聞かされた。もし、「事実」だとすれば、韓国における反政府運動の首謀者の身元保証人を、こともあろうに日本の外務省

た。当時の報道をもとに事件の概要をまとめた。



七三年七月二十五日から、日本に滞在していた金大中が、八月八日の白昼、宿泊中の東京・千代田区の「ホテル・グランドパレス」から、複数の韓国人により拉致された。その後、行方不明となり、六日後の八月十三日になって、韓国のソウル市内にある自宅に、目隠しをされ、傷だらけの姿であらわれた。この事件の全貌については、その後、韓国の有力紙が「K C I A」の「極秘資料」を入手したとして明らかにしている。この他にも様々な報道がされてきた。

当時の日本政府は、田中首相、大平外相の時代であった。後に発刊された『大平回想録』によれば、日米首脳会談から帰国したばかりの大平外相は、静養先の箱根で事件発生を知らされた。外相は「この事件は、日本の主権に対する侵害が絡む複雑かつ深刻な問題」と認識していたという。

金大中本人は、当時の会見で「ホテルの廊下で麻酔薬をかがされ連れ出され、自動車で大阪らしいところに運ばれた。その後大きな船で韓国に連れてこられた」と拉致された模様を明らかにしている。

この年の九月になって、日本の捜査当局は、現場に残された指紋などから在日韓国大使館の金東雲一等書記官が、事件に関与していた事実を突き止め、韓国側に任意出頭を求めたが、事実上拒否された。また本人も、すでに日本にいなかった。その後も、韓国政府は「金書記官の帰国を認めたが、事件には無関係」との態度を貫き通した。このため、事実関係をめぐる両国の主張は、平行線をたどっていた。

日韓両国には、暗い過去の歴史があり、また国交が正常化されたとはいえ、当時の両国関係は、必ずしも良好なものではなかった。

このままこう着状態が続けば、両国関係は抜き差しならない外交的亀裂を生じる可能性もあった。

事件発生直後は、極力政治レベルのものにせず、この問題に対処していた大平外相も「お互い独立国家として、長期の友好関係を考慮する必要がある」として、事態打開のために、高度の政治判断による決着に傾いたといわれる。



ところで、当時、日韓両国は入国査証（ビザ）を取得するためには、入国先の身元保証人が必要であった。金大中の場合、この身元個人名かどうか不明だが、当時の大平外相のサインがあったとのことだ。

朴大統領にとっては、金大中が最大の政敵であり、反朴運動の首謀者でもあって、「政治犯」も当然であった。こうした金大中の日本入国に際し、日本の外務省首脳が、身元保証人を引き受けていたとなれば、韓国側は、国家間の信義に反する重大な外交問題だとして、日本政府に事実関係の究明を迫ることは必至だろう。となれば、金大中事件の真相究明どころか、

政治決着もおぼつかなくなる。さらには、日韓関係そのものが、重大な局面を迎えたことだろう。

金大中拉致事件に、韓国の公安当局者が関与したことは、日本側の捜査で明白である。最終的には、事実関係をうやむやのまま「政治決着」を図ったことは、大平外相にとっても苦渋の選択であったに違いない。

こうした背景に、身元保証人問題が事実だとすれば、何らかの影響があったのではないか。

この「事実」関係について、ほとんまりがさめたら、当事者に確認するとともに、引き受けたわけをただしたいと思っていたが、日常の取材活動に追われて、確認できないままに、当事者もすでに他界されておられ、真相は「藪の中」……。

あおき・てつお会員 一九三七年生まれ
六〇年ラジオ東京（現東京放送）入社
政経部長 報道局長 報道主幹 宇宙
プロジェクト室次長 社長室・報道局理
事などを歴任 二〇〇〇年スカイパーフ
ェクト・コミュニケーションズ執行役員
〇一年からサムライティビー代表取締役
役社長

書いた話

書かなかった話

●イラク戦争

ワーキング
プレス

キティホークでの39日

▼津屋 尚

(日本放送協会国際部)

艦載機のとてつもない爆音が、空母を覆うペルシヤ湾の生ぬるい空気を激しく揺さぶり、すべての音をかき消していた。

開戦の二週間前。メディアを乗せたC2輸送機はペルシヤ湾北部にいたキティホークの航空甲板に大きな衝突音をたてて止まった。私自身三度目の空母着艦だった。日本の六社のほか、欧米や中国など各国のメディアから女性数名を含む約二十五人が、開戦前からキティホークに乗り込んだ。

男性記者にあてがわれた約十畳の船室は、七つの三段ベッドが並んだ二十一人部屋だった。ベッドに寝ころぶとその場で体を起こす

こともできなかつた。外部との連絡手段は衛星電話か数少ない船舶電話、それに米軍からアドレスが配布された電子メール。しかし、大規模空爆開始の直前など作戦の重要局面では「ブラックアウト」が宣言され、外部との連絡は数時間にもわたり一切禁じられた。

これまでの空母取材では近くへの移動にも兵士のエスコートが必要とされたが、今回は一人で歩くことが許された。この「特権」を利用して迷路のような船内を歩き回った。艦載機に取り付けられる前の爆弾が一時的に保管される場所などもほとんどわかってきた。だが、作戦情報が集まる司令室の扉はいつも固く閉ざされていた。そして乗船十五日目の未明。戦争が始まった。キティホークの随伴艦からもトマホークが発射され

たことを確認すると、衛星電話がつながりやすい艦橋までかけ上がり、東京のニューススタジオに直接電話をかけた。電話中継は何度も爆音に遮られた。艦載機の爆音に直接さらされる場所では何よりも大切なのは耳栓なのだが、自分に呼びかけるキャスターの声を聞くため耳栓は外していた。聴力が低下していくのを感じた。それでも開戦の日はおよそ一時間おきにリポートを送り続けた。

空母側からは朝夕の二回発表があった。公表されたのは前日投下した爆弾の数とおおまかな種類、それに大ざっぱな位置などで、作戦の詳細は明らかにされなかつた。広報官は「パイロットの安全のため知り得た情報でも公にしない約束を忘れないように」と何度も念を押したが、少なくとも空母側の発表で米軍機を危険にさらすと思われる情報が提供された記憶はない。

ただ空母の作戦を知るうえで、戦争二日目に空母の司令官がさらりと述べた「我々の任務は地上部隊への支援だ」という発言は重要だった。その「支援」任務と

は、地上部隊の侵攻の障害となるイラクの兵力を精密誘導兵器で徹底的に攻撃し、戦闘能力を奪うことだった。キティホークの艦載機が投下した爆弾は合計九百発。船内で爆弾の動きを注視し続けたおかげで、その種類や数の変化などから作戦の流れを読み取れた。砂嵐の時には、直前に多数の衛星誘導爆弾が船内で新たに組み立てられ、いつも“の場所に並んでいるのを見て、米軍は砂嵐でも攻撃の手を緩めない方針だとわかった。

バグダッドが陥落し、空母が任務を終えようとしていた頃、空母からの戦況リポートは七十回を超えていた。三十九日間の従軍取材は終わった。

戦場からの報道が今回ほど大量かつ同時進行的に世界に伝えられた戦争はなかつた。米軍にとつて報道を巧みに利用することは重要な作戦の一部だ。国防総省が多数の記者を従軍させた本場の狙いは何だったのか、改めてそれを検証する仕事が残されている。

つや・ひさし 一九九一年入局 名古屋放送局 横浜放送局 横須賀報道室を経て 九八年から報道局国際部

佐賀発

知事選

自民「四人支持」の波紋

丸田 康循

(佐賀新聞社報道部)

「どなたも新しい佐賀を切り開くのにふさわしい方々で……」

佐賀県知事選を目前にした二月初め、自民党県連の陣内孝雄会長は、保守系の有力候補四人から出された推薦願について「全員支持」とする総務会の決定を発表した。それは、全国的な「脱政党」の流れというより、「政党不在」といわれた今回の知事選を象徴する出来事だった。

佐賀県は県議会の九割近くを自民党議員で占める「保守王国」。過去五回の知事選も保守系の相乗

り候補と共産系候補の対決という事実上の「信任投票」が続いた。

ところが、今回は三期十二年を務めた井本勇氏（七七）の引退表明に伴い、一挙に六人が名乗りを挙げる大混戦に。このうち四人から推薦願を出された自民県連は揺れた。「一人に絞ると組織が割れる」「自主投票では党のメンツが立たない」。最終的に下した結論が異例の「全員支持」。組織分裂という最悪の事態を回避し、党の影響も温存しようという苦肉の策だった。

この自民の決定が、他の政党に大きな波紋を広げることになる。自民と同じ四人から推薦願が出された民主は「これでは、だれを選んでも自民との相乗りになってしまふ」と候補の絞り込みを断念、自主投票とした。続いて、社民、

公明も自主投票を決めた。

こうして、共産以外の各政党が知事選に対して明確な姿勢を示せないままの「迷走」選挙に突入。混戦に拍車をかけ、いくつもの「功罪」もつんだ。

自民県連は、四人支持を決めた際、党内混戦を避けるため県選出の国会議員に知事選での「中立」を申し合わせた。激戦になるにつれて一部議員が公然と特定候補を応援、「四人支持」は有名無実化した。応援を得られなかった有力候補の地元の自民支部は「次期衆院選は支援しない」と抗議、大きな「火種」を残した。

一方、知事選告示直前、佐賀一区選出の坂井隆憲・衆院議員（自民）によるヤミ献金事件が発覚、「政治とカネ」をめぐる問題が焦点となったが、支持を受けた陣営からは、「一人だけ推薦でなくてよかった。四人いるので逆風も分散される」との本音も聞こえた。政党の存在感がさすんだことが結果的に組織決定に頼るのではなく、自分の目や耳で判断しようとする動きにもつながった。市民団

体などによる公開討論会は三回開かれ、かつて「無風にあぐらをかいている」と批判された保守陣営もすべて出席した。「市民の視線」を無視できなくなった表れであり、今後の選挙の在り方を考える上での収穫だったといえる。

ちなみに選挙の結果は、「変革」への期待を担った元総務省企画官の古川康氏（四四）が、県議会議長や県農協中央会長を務めたベテランの元県議を破って初当選。長野県の中康夫知事を抜いて全国最年少知事となった。それは分権時代の全国的な「改革」へのうねりが、保守的な風土の強い佐賀県にも波及し、特定の業界や組織を頼みとする従来型の選挙が限界にきていることを示した。（まるた・やすのぶ）

佐賀県メロ

人口 87万6,000人
世帯 28万世帯
面積 2439平方キロ

北は玄界灘、南は有明海に面する。近代化の中心地として発展。焼酎、酒、物産が盛ん。近世には科学技術や医学など限られた分野で活躍。明治維新には大活躍。戦後は工業地帯として発展。日本磁器の発祥地。有明のノリ、農産物の産出。二条大、タマネギ産出。シブラスにあること。

■会議報告

二〇〇三年度日本記者クラブ賞
選考委員会 (4・3 大会議室)

クラブ賞推薦委員会の藤原房子
委員長の報告を受けた後、選考に
入り、田城明氏(中国新聞社特別
編集委員)を授賞者として理事会
に答申することを決めた。

出席 堀川委員長、君和田、住田、
島田、門田、宇治、関根、
平本、大戸、村上の各委員。

北村理事長、小林副理事長、
那部専務理事。

第241回会報委員会

(4・9 ゴールドルーム)

△理事交代▽

日本民間放送連盟

(新) 玉川 寿夫 専務理事兼
事務局長

(旧) 北原 健児

△法人会員代表変更▽

読売新聞社

(新) 内山 齊 東京本社代表
取締役社長

(旧) 渡邊 恒雄

四月号について意見交換した
後、五月号の編集方針を協議した。

出席 住田委員長、小川、尾崎、
仙石、中山、堀内の各委員。

第30回監事会

(4・14 大会議室)

二〇〇二年度の会計監査を行っ
た。

出席 小川、高野、土田の各監事。

第320回企画委員会

(4・15 宴会場)

前回以降の行事報告の後、今後
のゲスト選考で意見を交換した。

出席 君和田委員長、山田、伊藤、
橋本、小池、矢島、菅沼、
春名、金重、神志名、迫田、

東北放送

(新) 木村 成忠 取締役

(旧) 千葉 寛城

(新) 新井修一郎 代表取締役
社長

(旧) 升森 長

日本民間放送連盟

(新) 玉川 寿夫 専務理事兼
事務局長

(旧) 北原 健児

和田、鳥居、村澤、福沢、
ワグネルの各委員。

第308回会員資格委員会

(4・17 小会議室)

五月一日付の会員入退会を審議
し、理事会に答申した。

出席 門田委員長、瀬戸、塚越、
村神の各委員。

第84回総務委員会

(4・21 小会議室)

二〇〇二年度事業報告案、同収
支決算案ならびに次期繰越収支差
額処分案、第一六期(〇三、〇四
年度)の役員社構成案を決定し、
理事会に上程することにした。

出席 堀川委員長、君和田、関根、
大戸の各委員。北村理事長、
小林副理事長、那部専務理
事。

第377回理事会

(4・21 大会議室)

一、日本民間放送連盟の理事交代
(北原健児氏から玉川寿夫専務理
事)を承認した。

一、〇二年度事業報告と同収支決
算ならびに次期繰越収支差額処分
について総務委員会案通り承認
し、第六二回総会に上程すること

にした。

一、〇三年度日本記者クラブ賞を、
選考委員会(堀川委員長)の答申通
り、田城明氏(中国新聞社特別編集
委員)に贈ることを決定した。

一、第一六期(〇三、〇四年度)
役員構成社を、役員選出委員会案
通り決定した。

出席 北村理事長、小林副理事長、
那部専務理事。君和田、堀
川、天野、村田、桃、古川、
東金城、山下、関根、大戸、
宮地、田村、玉川、佐藤の
各理事と深澤氏(村上理事
代理)。小川、土田の各監事。

招待券

朝日新聞社から「舟

越桂展」「斐正網作品
展」「安藤忠雄建築展二〇〇三」
「星野道夫の宇宙展」「クマのプー
さんの世界展」「大竹省二写真展」
「安野光雅 絵本の世界展」、読売
新聞社から「日本秀作美術展」「サ
ム・フランシス展」、日本経済新
聞社から「鎌倉 禅の源流展」、
産経新聞社から「ロマンノフ王朝展」
「皇妃エリザベト展」、片岡護会
員から「全陶展」の招待券をいた
だきました。お礼申しあげます。

◇個人D会員

プロフィール

四月一日付入会の個人D会員、法人賛助会員、特別賛助会員の方々です。

◆ゴルフの会◇

播谷会員が初優勝

前日の雨もカラリと上がりさわやかな天候のもと、第八十一回記者クラブゴルフ会を四月二十二日戸塚カントリークラブで開催しました。日頃持ち慣れたペン（最近は何プロ？）をクラブにかえて集まったマスターたち



優勝者（右）には白木東洋・幹事からカップが贈られた

は、初参加者四名を含む八組二十八名。今回は五年に一度のハンデイキヤップ改正。「優勝のチャンス到来！」と新たな気持ちでぞ

まれた多数の参加者の中から、優勝カップを手中におさめたのは播谷実会員。二位は土田羊昭会員、三位は近浪弘武会員でした。秋の大会も多数の方々が集えることを願っています。

日本プレスセンター
柿原 健

第一回将棋大会は十三人が参加し、トーナメント戦で行われ、池上雅己さん（会友・フォーリン・プレスセンター）が優勝しました。

池上さんの香落ちでの決勝相手は林茂雄さん（中日出身）。林さんの端攻めが成功したかにみえましたが、池上さんは穴熊に固め、一直線の寄せ合いを七十六手で制しました。敗者復活の三位決定戦は柴田

□将棋の会 (4. 26)

鉄治さん（朝日出身）対安原幸雄さん（読売出身）。安原さんの香落ちでしたが、柴田さんに軍配が上がりました。賞品はいずれも将棋連盟作の棋士揮毫入り扇子（複写版）。優勝者には千勝達成棋士の寄せ書き入りで、二位、三位には今期名人戦記念用のものが贈られました。名人戦記念の方には森内俊之名人が「信」、羽生善治挑戦者が「克」としたためています。

▼会員証が古くなされた方、写真を新しくされたい方は顔写真（縦3cm×横2.5cm）を事務局の本庄までお持ちいただければ、すぐ再発行いたします。

写真部

写真 原田 浩司

(一九八八年共同通信入社 大阪支社を経て ○一年か
ら東京本社写真部 開戦直前バグダッドから隣国ヨル
ダンに一時撤退 陥落直前に再入国した)

フセイン像の頭部を壊すバグダッド市民(4・9)



“権力後”の諸相

独裁者の下で、国中がその銅像、肖像、写真で埋め尽くされるのは東西共通の現象である。旧ソ連・東欧でのレーニン像、中国の毛沢東、北朝鮮の金日成、さらにはルーマニアのチャウシェスクの像などがその好例だ。そして独裁者の支配が覆るとき、銅像も肖像も、瞬時に倒壊、破棄の運命をたどる。

権力者が自己の銅像を建てたがる気持ちはまだわかるにしても、権力者の遺体を永久保存して公開する風習が、それも社会主義国だけにあるのは、どう理解すればよいのか。

いまはレーニン、毛沢東、ホーチミン、金日成の四遺体だけが「健在」だが、かつてはブルガリアのデIMITロフ書記長、かのソ連のスターリンら五人もこの「榮」に浴した。だがその後政治の風向きが変わって、五人の遺体は撤去された。

保存の技術は旧ソ連が開発したのだが、なぜそんなにまでして遺体を残し、かつ公開するのか。革命政権とあって、後継者が、前任者の生けるがごとき遺体を見せることで権力の正統性とその継続性を示そうとしているのか。

ともあれ、権力者は死後も安閑としてはいられないようである。

(友田 錫)

五月二十三日(金)に記念講演と会員懇親会

五月二十三日(金)の通常総会終了後、山内昌之東京大学大学院総合文化研究科教授を迎え、総会記念講演会が開催されます。テーマは「イラク戦争と国際社会―日本の選択―」です。午後四時半開始です。

引き続き五時半から、会員懇親会が行われます。席上、本年度日本記者クラブ賞受賞者の田城明氏(中国新聞特別編集委員)が紹介されます。講演会、懇親会いずれもビジターお一人を伴っていただいで結構です。多数のご参加をお待ちしています。

会員の著書 (寄贈していただきました)

素顔の日銀副総裁日記 (集英社 一、九〇〇円) 藤原 作弥 会員

新聞は生き残れるか (岩波新書 七〇〇円) 中馬 清福 会員

寄贈書

防衛ハンドブック 防衛庁長官官房広報課

高松宮殿下記念世界文化賞 日本美術協会
古代稲は生きていく 橋場 義之 会員

ナンバースタンドに会員証を レストランをご利用の際は、テーブルの上のナンバースタンドに会員証を置くようご協力願います。

『テレビの21世紀』

岡村 黎明

(朝日放送OB)

ことしは、テレビについての論議がさかんな年だ。テレビ開始五十年、地上波デジタル元年だからだが、いろいろな意味で大きな転換期にあることが大きい。テレビ、特に日本のテレビはその自覚にうすく、旧体制の継続、拡大で乗り切れると思っっているかのようだ。本書の問題提起を契機に、放送界の内外に、さらに論議が深まれば、うれしい。

(岩波新書 七四〇円)

『諏訪正人の「余録」』

諏訪 正人

(毎日新聞特別顧問)

一九七九年四月十九日から二〇〇二年六月十九日まで、二十三年二カ月間に毎日新聞朝刊一面コラム「余録」に書いた六三五四編から五百編を選んだ。ざっと六分の一。なかには忘却の川に沈んでいたものも少なくない。拾い上げては久闊を叙した。一編一編それぞれにいささかの感慨がある。五百編を選びながら、私は「舞踏会の手帖」を連想した。あの映画の主人公も二十年前の思い出をたずね歩いた。

(毎日新聞社 二、四〇〇円)

クラブの電話

(ダイヤルイン)

- ・和食レストラン(9階) 3503-2723
- ・洋食レストラン(10階) 3503-2766
- ・貸室予約 3503-2724
- ・受付、宴会打ち合わせ 3503-2721
- ・クラブ行事への申し込み 3503-2722
- ・会員事務 3503-2725
- ・経理 3503-2728

五月の行事予定 (6日現在)

- 14日(水) 午後3時~4時30分 シリーズ研究会「北朝鮮」⑦ 重村智計・拓殖大学教授
- 15日(木) 午後3時~4時 アブドウライ・ワッド セネガル大統領記者会見

会員現況

- 法人会員 一四九社 基本会員 八一五人 個人会員 一、七二九人 法人・個人賛助会員 八一社 二一三人 特別賛助会員 六六人 名誉・功労会員 一二人
- 計 一三三〇社 二、八三五五人

会報委員会

- 委員長 住田良能
- 委員 小川津根子 尾崎美千生 仙石伸也
- 中山司朗 堀内敏宏 元田 成
- 連絡 長谷川和子 本庄五月
- (電話) 〇三三三三〇三三二七五二
- (FAX) 〇三三三三〇三三七二七二